

LIME 手法による環境影響評価

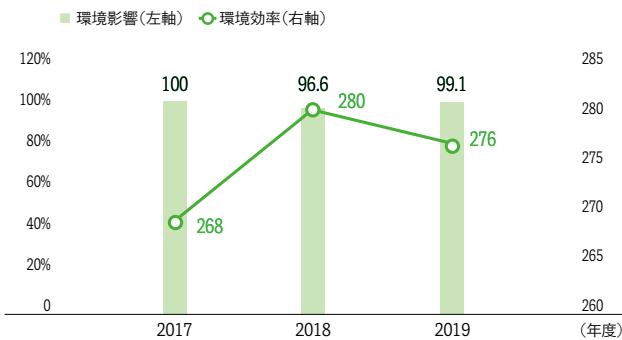
LIME 手法を用い基準年の環境影響を 100 として、定量的に評価しています。

2019 年度実績より日本の国内での評価に使われることを前提としていた LIME2 と合わせ、気候変動、大陸間の大気汚染と PM2.5 水消費、地下資源消費、森林資源消費の環境への影響の評価が海外含めてできるように改定された LIME3 での評価を開始し、グループ、海外事業所を含めた全社の環境影響を評価しました。

また LIME 3 では、従来 LIME 2 での評価の基準年を 2006 年としていましたが、中長期環境目標と合わせ、2017 年を基準年としました。その結果、LIME 2 での評価では基準年 (2006 年度) を 100 として 2019 年度は 46% 低減、LIME3 での評価では基準年 (2017 年度) 比 1% 低減となりました。

全社 LIME3 評価

■ 環境影響・環境効率の推移



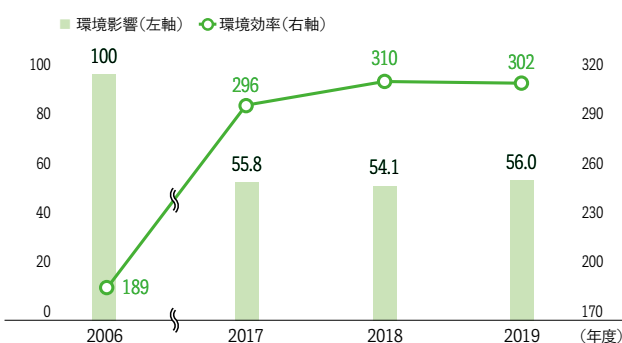
※1 2017年度を100とする。非生産事業所を除いて再計算

※2 環境効率=売上高/環境影響

環境影響については、2017年度（基準年度）より省エネ活動等によるエネルギー消費の削減、高効率生産やマテリアルリサイクルの推進による資源消費の削減などにより低減しましたが、2019年度はM&Aによる追加拠点のエネルギー資源消費の影響により2018年度比で増加、基準年度比では低減となりました

(参考) 国内 LIME2 評価

■ 環境影響・環境効率の推移



※1 2006年度を100とする。非生産事業所を除いて再計算

※2 環境効率=売上高/環境影響

2006年度（基準年度）から以下のような施策を行いました
 ・溶剤処理装置の導入等により、VOC大気放出が約73%削減
 ・高効率製造とマテリアルリサイクルの推進等により、全資源消費が約71%削減
 ・省エネ・高効率設備への更新や省エネ活動等により、全エネルギーが約29%削減

東京都市大学 環境学部教授

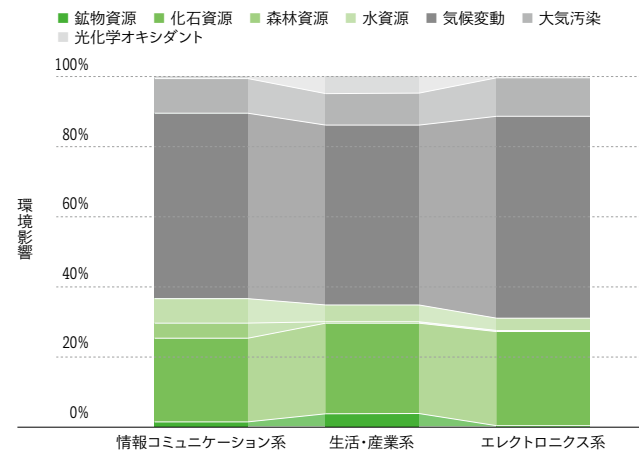
総合研究所環境影響評価手法研究センター長

伊坪 徳宏



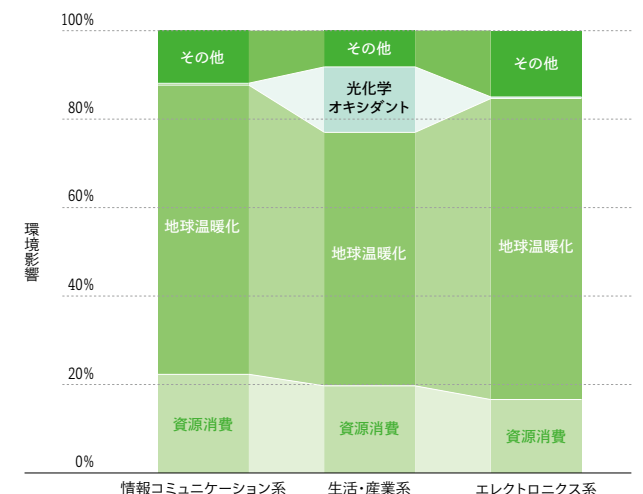
環境影響の評価は気候変動、森林伐採、化学物質管理など幅広い観点から注目することに加えて、世界における環境影響をより正確に分析することが求められます。凸版印刷は最新の影響評価の手法を用いて、これらの両側面に注目した分析を実現しました。日本と海外の環境影響は異なっており、最適な製品設計は異なりますし、改善のためのアプローチも変わってくるでしょう。グローバルレベルの環境影響に基づいた凸版印刷のサステナビリティ経営の展開に世界が注目しています。

■ 事業分野別環境影響の内訳



※ 当社は事業分野別に取り扱う材料・品種が異なることから、環境影響は一律ではないため、重点とすべき環境影響を事業分野別に評価しています

■ 事業分野別環境影響の内訳



※ 当社は事業分野別に取り扱う材料・品種が異なることから、環境影響は一律ではないため、重点とすべき環境影響を事業分野別に評価して、中期目標に反映させています